

1. 評価報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4076200296		
法人名	医療法人 雅紀会		
事業所名	グループホーム さくら		
所在地 (電話番号)	福岡県飯塚市秋松 709番地 11 (電話) 0948 21 2201		
評価機関名	株式会社アトル ソリューション部介護支援システムグループ		
所在地	福岡県福岡市博多区半道橋 2- 2- 51		
訪問調査日	平成19年7月17日	評価確定日	平成19年8月14日

【情報提供票より】(19年 6月 30日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15年 2月 1日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	12 人 常勤 12人, 非常勤 人, 常勤換算 12人

(2) 建物概要

建物形態	併設 <input checked="" type="radio"/> 単独 <input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/> 新築 / 改築 <input type="radio"/>
建物構造	鉄骨造瓦葺平屋 造り 1 階建ての 階 ~ 1 階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃 (平均月額)	45,000 円	その他の経費 (月額)	円	
敷 金	有 (円)	無 <input checked="" type="radio"/>		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (100,000円)	有りの場合 償却の有無	有 <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/>	
食材料費	朝食	300 円	昼食	500 円
	夕食	500 円	おやつ	0 円
	または 1日当たり 円			

(4) 利用者の概要 (6月 30日現在)

利用者人数	18 名	男性	6 名	女性	12 名
要介護 1	4 名	要介護 2	4 名		
要介護 3	5 名	要介護 4	5 名		
要介護 5	名	要支援 2	名		
年齢	平均 86.6 歳	最低	80 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	済生会福岡第二病院、桂川歯科
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

遠賀川の辺りに位置し隣には高齢者介護施設等が建てられており 庭が広く開放的なホームである。管理者は本人の力を生かして一方的な介護をするのではなく残存機能を引き出す介護を目指しながら日々の介護を行っている。その思いが職員にも反映され職員一丸となって、日々介護にあたっている。ホーム内は明るく、また穏かで落ち着いた雰囲気でもそれぞれが自分のペースで自由にゆったりと過ごされている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況 (関連項目 :外部4)</p> <p>前回評価で運営理念の明示、成年後見制度等の活用、安全管理、職員の育成等の指摘を踏まえ、全職員で具体的に解決できることから前向きに取り組まれている。改善に向けて検討された内容等を周知徹底のためにも改善計画シートの作成を期待したい。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目 :外部4)</p> <p>評価の意義や目的を理解し、全職員で自己評価に取り組んでいる。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目 :外部4, 5, 6)</p> <p>二ヶ月に一回開催しており、利用者、利用者の家族、地域包括支援センター職員、協力施設看護師長、民生委員等に参加いただいている。ホームの状況報告や行事案内の他、各々立場からのご意見を聞き、サービスの向上に取り組んでいる。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目 :外部8, 9)</p> <p>利用者の日々の様子や行事写真等をホーム便りに掲載し、家族の方に配布されたり家族会を開催し、ご意見やご要望を聞いたり、苦情箱を設置し意見を気軽に伝えられるような取り組みが行われ、ホームの運営に反映させている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携 (関連項目 :外部3)</p> <p>隣の施設との合同行事の参加やボランティアの受け入れも積極的に行っている。民生委員やボランティアとの関わりを活かし、協力して頂き地域に溶け込むような取り組みが求められる。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.理念に基づく運営					
1.理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくっている	慣れ親しんだ生活様式が守られる暮らしとケア 豊かな人間関係を保ち支えあつ暮らしとケアなど五つの運営理念を掲げてサービスを実践している。全職員へ理念の徹底が図られている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取組んでいる	日々管理者は思いを職員に語っており、毎朝の朝礼やミーティング等にて理念は具体的な形として職員に共有されている。		
2.地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	隣の施設との合同行事に参加したり、ボランティアの受け入れも積極的に行っているが、地域住民との交流が少ない。		民生委員やボランティアとの関わりを活かし協力して頂き、地域に溶け込むような取り組みが求められる。夏祭りに住民の人を招いたり、町の行事に参加したり、近隣の小中学校に働きかけを行い体験学習に来てもらうなど地域との交流をはかり、管理者及び職員は積極的に地域に働きかけて行かれることを期待したい。
3.理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義や目的を理解し、全職員で自己評価に取り組むようしている。また、外部評価の結果を踏まえ全職員で具体的に解決できることから前向きに取り組んでいるが改善計画の作成までは至っていない。		全職員で外部評価の結果を踏まえ改善に向けて検討されている内容等を周知徹底のためにも改善計画シートの作成を期待したい。
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一回開催され、参加者として利用者、利用者の家族、地域包括支援センター職員、協力施設看護師長、民生委員等が参加し、ホームの状況報告や行事案内を行ったり、各々の立場からの意見を聞きサービス向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者や運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議の案内を行い、地域包括支援センター職員さんに参加して頂いているが、その他、市町村との連携は取られていない。		市町村担当者とともに課題解決を図っていく取り組みが大切となり、運営推進会議の参加のみならず、市町村の窓口におもむき、事業所の実情やケアサービスの取り組みについて報告し共に問題解決に取り組んでいくような関係作りを積極的に行われることが期待される。
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	機会があるごとに職員への説明を行ったり勉強会等を開き職員の理解を深めるようしている。また、判らないことがあれば積極的に確認している。		
4.理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らし方や健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホーム便りによる定期的な報告や日常生活で変化があった場合その都度連絡を行っている。金銭管理も出納帳で管理を行い、家族からの支払時に定期的に生活ぶり等を報告している。		
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からの理解を得て、今年度より家族会を開催し、ご意見ご要望をを聞いている。また、苦情箱を設置し、意見等を気軽に伝えられるよう取り組まれている。		
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は利用者のダメージなどについて家族への配慮を含めた対応や他の職員と助け合いながら努めている。また、離職者を最小限に抑える努力も行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5.人材の育成と支援					
11	19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>法人で採用を行っているが管理者のもとに事前に連絡があったり希望を聞いたりし対応している。また、色々な年代の職員が勤務し、男性職員も採用しており、それぞれの能力に応じて仕事に取り組んでいる。</p>		
12	20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>外部研修への参加、ホーム内での勉強会開催において人権教育、啓発活動に取り組んでいる。</p>		
13	21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>内外の勉強会や研修会へ積極的に参加できる体制は整っている。研修後はミーティングの時に内容等の話をされている。</p>		
14	22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>同法人のホームとの交流を行っているが系列外の同業者との交流ができる体制まではできていない。</p>		<p>他ホームとの連携がとれる様に協議会に参加するなどし見学や同業者との意見交換ができるように働きかけを行い、サービスの向上を図れるよう取り組みを期待したい。</p>
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>家族と一緒にホームに来てもらったり見学や体験入所を行ったり、管理者が自宅に向いて会話をしたり様子を見たり事前に状態をを把握し、馴染めるような工夫をしている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は利用者の方と一緒に体動かしたり、風船バレーを行ったり、利用者の部屋で会話をしたり、散歩に出掛けたり、椅子に腰掛け話をしたりと常に一緒に過ごす工夫して対応している。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
17	35	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入所時に本人、家族に希望を尋ねたり、生活暦を聞き把握に努めている。</p>		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>利用者の思いや意見を聞いたり、利用者の状態を把握しながらサービス担当者会議を開き介護計画の作成に活かしている。</p>		
19	39	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>職員からの情報、ご家族や利用者の要望を取り入れたり、ケアチェック表をもとに会議を開き、三ヶ月に一回見直しが行われている。状態が変化した際にはその都度見直しを行っている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3.多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族の状況に応じて、かかりつけ医や協力病院への送迎等必要な支援を行ったり 買い物や外出の支援や隣の施設と協力し合同行事など柔軟に対応している。		
21	45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	状態が悪くなればかかりつけ医への往診や歯科の協力機関より定期的に口腔ケアで歯科衛生師が来訪しており、今までのかかりつけ医のところへ送迎も行っている。また、定期検診等も行っている。		
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期の対応については入居の時に本人と家族や主治医、職員で確認を取り、方針を共有し実際に入院になった時などには更に話し合っ確認している。		
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1.その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者に声かけをする時には敬語など本人を傷つけないような声かけ対応に配慮している。		
24	54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者が自由に自分のペースで生活できるように職員はバイタルを測るとき朝の対話を大切に声かけを行ったり工夫している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の献立には利用者の希望を取り入れたり、準備や後片付けは希望する利用者と一緒にしている。食べこぼし等についてもさりげなくサポートしている。		
26	59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は本人の希望に合わせて対応している。主に日中が多いがその他の時間の希望があれば対応できるようにしている。入浴チェック表を作成し利用者の状況を把握している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるよう、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物たたみ、食事の準備や片付け、裁縫等利用者の力量に応じて役割を持ってもらえるような場面作りの支援を行っている。		
28	63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望に応じて散歩や買い物に出掛けたり、天気の良い日は庭に出て日光浴を行ったり職員が見守りながら支援している。		
(4)安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	施錠は夜間より早朝まで行っているがその他の時間帯は玄関の鍵をかけずに自由な暮らしを支援している。また、利用者が外出しそうな場合は止めるのではなくさりげなく声をかけたり一緒にいていたりしている。		
30	73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	夜間を想定した訓練や消火器の使い方など年二回行っている。近隣の協力体制は隣の施設へ災害時の協力をお願いしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分の摂取状況を毎日チェック表に記録し職員が情報を共有している。栄養バランスは管理栄養士により配慮されている。		
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や居間、食堂などの共用空間には季節の花、利用者が作成したカレンダー等が飾られ家庭的である。また、食堂は天上が高く小窓から日が差し込み明るく室内の温度や音は快適な状態に保たれ居心地よく過ごせる環境である。		
33	85	居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	クッション製のフローリングの洋室や和室を選べるようになっている。入居前に使用していた家具等を自由に持ち込むこともできる。また、各々の部屋にはトイレが設置されている。		